

## 第5分科会

【演題等】「大阪府発！魅力ある学校づくりに向けて  
～チーム学校による発達支持的生徒指導の取組み～」

【講演・発表者】大阪府教育庁市町村教育室小中学校課生徒指導グループ

首席指導主事 中野 悟志  
指導主事 家村 憲治

### ・発表概要

大阪府では、子どもたちが安心・安全に通うことができる魅力ある学校づくりをめざし、発達支持的な取組みを推進しているところ。授業を始めとする教育活動全体で取組みを進めること、その際、取組みの基盤を成す教職員の同僚性を育むポイントとして、明日から取り入れられる具体的な実践や工夫についてお伝えする。



### ・発表要旨

#### 1 大阪府の不登校の現状と「大阪府不登校支援パッケージ」

大阪府では、不登校となる子どもたちの増加に加え、不登校となる時期の低年齢化や、一旦不登校になると次の学年でも継続する傾向にある。このような状況をふまえ、小中高校の子どもたちを包括的に支えていくことをめざし、令和5年12月にとりまとめた「大阪府不登校支援パッケージ」では、魅力ある学校づくりの観点を掲げており、欠かせない取組みのひとつに「発達支持的生徒指導」がある。

#### 2 大阪府がめざす発達支持的生徒指導

大阪府教育庁がめざす「発達支持的生徒指導」を進めるうえでの具体的な POINT

- POINT 1 子どもにつけたい力を明確にする。
- POINT 2 子どもの自発的・主体的活動である。
- POINT 3 すべての子どもが対象である。
- POINT 4 PDCA サイクルを回す。の4つが挙げられる。

#### 3 大阪府内の実践事例

大阪府が考える発達支持的生徒指導を進めるうえでの具体的な4つの POINT を押さえて取り組んだ府内小中学校の実践事例を紹介する。

##### (1) 総合的な学習の時間における発達支持的生徒指導

「総合」の時間を通じて求められる子どもの成長する姿と、改訂版の提要に記載の「自己指導能力の獲得」とは重なる部分が多いことから、「総合」の時間において、「授業に内在化する生徒指導の実践上の4つの視点」を取り入れた具体的な学習の流れや教職員の働きかけについて紹介する。

##### (2) 全校生が参画する校内ルールの運用・見直し

体育大会における校内ルールの運用・見直しについて、生徒会執行部、すべての生徒に加え、教職員にとって安心・安全な体育大会とするために、生徒が主体的に課題を発見し、どうすれば課題解決につながるのかを考えられるように工夫した仕掛けについて紹介する。

### (3) 校内教育支援センターにおける発達支持的生徒指導

校内教育支援センターにおいて、教育活動上の様々な場面で、不登校やその兆しのある子どもにとっても、「自己選択・自己決定」できる機会を設け、自己指導能力を身につけられるような具体的な働きかけについて紹介する。

## 4 発達支持的生徒指導を「チーム学校」で進めるために

実践事例の学校に共通することの一つに、教職員の同僚性が高い点が挙げられる。各校において、同僚性を発揮しにくいと感じられている場合は、日々教職員が向き合っている子どもを話題の共通項として話し合う機会を持てるように大阪府で推奨するツールを紹介する。発達支持的生徒指導をすすめるためには、教職員自身が「子どもたちをどう成長させたいか」を突き詰める必要があるが、発達支持的な取組みを進めることにより、教職員の子どもへの「支える」「働きかける」が変わることにつながることも実感している。引き続き、学校が、子どもにとっても教職員にとっても安心・安全で魅力ある学校となるように、取組みを進めていく。

### ・質疑応答の概要

Q1：実践報告の校内教育支援センターについて、環境整備等多くの工夫の紹介があったが、これは1つの学校にこれだけの機能が備わっているのか。

A1：紹介した実践事例については、1つの学校の機能である。人材や予算等の制限によりできないこともあると思うが、大切なことは1人ひとりの子どもの状況をしっかり見立て、その子に合った支援が何か明確にしたうえで、環境も含め、校内教育支援センターで行う支援を決定すること。

Q2：実践報告のなかで、取組みを進めるにあたって、子どもの最善の利益を考え、教職員の合意形成が図られていったとのことだが、実際はなかなか難しい。実践報告の学校は教職員の合意形成は円滑に進んだのか。

A2：実践事例の3つの学校においても、最初から同僚性が備わっていたというわけではなく、子どものことを話題の共通項とし、課題やめざす姿について教職員が話し合うことからスタートしたことが、好事例につながった。子どものことを教職員で話し合うきっかけづくりが重要であることから、今回の発表では、そのためのツールを紹介した。

Q3：本校では「めざす子ども像」実現に向けたグランドデザインを子どもの実態に合わせて、再考しようと考えている。「めざす子ども像」には子どもの意見を反映させてもよいか。

A3：「めざす子ども像」に子どもの意見を反映させるプロセスを取り入れることは可。ただそれ以上に大切なことは、抽象的な「めざす子ども像」に対し、子ども自身が「どう行動するか」等、具体的な行動の内容まで、示すことが重要では。

## ・記録者雑感

小中学校の管理職や、生徒指導主事等の方の参加が多く、大阪府内の小中学校の実践事例の報告に、熱心に聞き入っておられる様子から、どの自治体、学校でも発達支持的な取り組みへの関心の高さが伺えた。

また、発表は、指導主事2名の掛け合いで進めたこともあり、会場から笑いが生まれ、終始なごやかなムードだった。